



新年のご挨拶

国土地理院北陸地方測量部長

吉池 健

平成22年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日本測量協会北陸支部並びに会員の皆様方には、平素より国土地理院の測量事業や測量行政に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、映画「劔岳点の記」が6月13日から富山で先行上映され、それを皮切りに全国で公開され、約240万人の動員を記録しました。映画業界では、測量のような地味なテーマでは「奇跡」の大成功だそうで、応援してきた測量関係者にとっては、大変嬉しい結果となりました。測量というベーシックな仕事へ、誇りと勇気を与えてくれた記念すべき映画になりました。

同じ6月、新たな「基本測量に関する長期計画」が発表され、平成21～30年度までの10年間の計画がスタートしました。この計画は、地理空間情報の高度活用社会を展望したもので、今後の測量界に大きな影響を与える内容になっています。基準点の計画では、地殻の定常的な変動を補正するセミ・ダイナミクス補正を導入、公共測量において1月から、電子基準点だけを使う1級基準点測量に適用されます。基盤地図情報では、全国の都市計画区域について、平成23年度までに縮尺2500レベル以上で、その周辺の平野部等については、平成25年度までに縮尺レベル5000以上で概成します。基盤地図情報と整合する地図情報、オルソ画像及び地名情報の3つを合わせた電子国土基本図を平成24年度までに全国を概成します。地図情報が現況に適合しなくなった場合には、3ヶ月以内に更新し、オルソ画像は、平野部等については、平成25年度までに整備、5年周期での更新を行います。

さて、測量界は、公共事業の削減や地理空間情報活用推進基本法の成立などによって、大きな転換期を迎えています。今年、この転換期を象徴するイベントが計画されています。その一つは、今年の8月に予定されている日本の準天頂衛星1号機の打ち上げです。衛星測位の技術を利用した地理空間情報の高度活用の進展が期待されています。もう一つは、9月に横浜で計画されている「G空間 EXPO」の開催です。平成20年に閣議決定された地理空間情報活用推進基本計画に基づき、産業界、学会、国・地方公共団体が初めて連携して行う博覧会です。地図の流通、ナビゲーションなど新産業の創造に寄与する講演会やシンポジウム、新商品・新サービスの展示会などが予定され、実行委員会で準備が進められています。国土地理院では、基盤地図情報の整備・活用を促進するためのフォーラムの開催を受け持ちます。

北陸地方測量部では、昨年11月に北陸4県の産学官の関係者に集まっていただき、地理空間情報活用推進に関する北陸地方産学官連絡会議の初会合を開き、管内における産学官の連携の出発点を築きました。今年、この「連絡会議」を年2回開催し、分科会なども立ち上げ、管内の情報交換と意見交換を活発に行えるようにして行きたいと考えています。また、第一四半期には、各県の測量及び情報関係の担当者に集まっていただき「測量等に関する県担当者会議」を開催するとともに、その後に各県の協力を得て、市町村の測量担当者等を対象とした「県別市町村等測量関連担当者会議」を開催し、国、県及び市町村の間における地理空間情報に関する情報交換、意見交換を活発にして連携を強化して行く計画です。

一年の計にあたり、日本測量協会北陸支部の会員の皆様方のご理解ご協力を、何卒よろしくお願い申し上げます。最後になりましたが、日本測量協会北陸支部のますますのご発展と会員の皆様方のご健勝を祈念申し上げ、年頭の挨拶といたします。